

令和元年度淀川区区政会議 第1回安全・安心なまち部会 議事要旨

日 時：令和元年5月21日（火）午後6時30分～午後8時27分

場 所：淀川区役所 5階 501会議室

出席者：

- ・委員8名（8名中）
泉委員（議長）、一丸委員（副議長）、新井委員、久保委員、光在委員、福岡委員、増田委員、米山委員
- ・区役所
久保政策企画課長、畑中市民協働課長、鳶岡保健福祉課長、山崎市民協働課長代理、大畑保健副主幹 外

内 容：

1. 開会
2. 事務局あいさつ
3. 議題
 - (1) 平成30年度運営方針の振り返り及び課題と改善策について
 - (2) その他

資 料：

次第、部会名簿、座席表、配付資料一覧

- ・資料1 令和元年第1回安全・安心部会 平成30年度の結果を踏まえた改善策検討にあたり、ご意見をうかがいたい内容
 - ・資料2 2018年度運営方針の振り返り（暫定概要版）
 - ・資料3 もと淀川区役所跡地等活用方針
 - ・資料4 令和元年度 区政会議等開催予定
 - ・その他 「よどマガ！5月号」、ご意見票
-

1. 開会

2. 事務局あいさつ

3. 議題

(1) 平成30年度運営方針の振り返り及び課題と改善策について

○資料1、資料2について説明

（山崎市民協働課長代理）（大畑保健副主幹）

質疑応答・意見交換

【1－1 防災対策（自助・共助・公助の役割分担による減災推進）】

- ・ 備蓄が7日間以上ということで、一度試したことあったが、4人家族で、ペットボトルを4箱、食糧もラーメン等4人分で結構かさばりました。また水や食糧は消費期限があるので、注意しながら維持していくのが大変であると感じました。（一丸委員）
- ・ 東京防災というアプリケーションがあり、その中で、物の備えチェックリスト、室内の備えチェックリスト、コミュニケーションの備えチェックリストがあり、さらに、水や缶詰をいつ買ったというのが記録できるようになっています。これをアナログでやるとして、家計簿のような紙ベースのものを作ればいいのではと思っています。（増田委員）
- ・ 新聞に、ある会社では、社員40人分の7日間の備蓄をして、それを回して、年に4回、全員でお昼に試食をするという取り組みをしていると載っていました。例えば、4人家族の淀川花子さんの場合で、具体的に水、缶詰、レトルトのものがいくつでそれを7日間分のようなものを「よどマガ！」等の特集等で組んでみれば、もう少し具体的にイメージができるのではと思いました。（増田委員）
- ・ 家庭での備蓄は、特に高齢者よりも若い人がやっていないように思います。地震や津波はいつ来るかわかりませんので、いかに広報でお知らせをして浸透させていくのが、地道な活動が必要であると思います。地域の皆さんもいろいろ認識しておられますが、中身を見たらなかなか実行しておられません。木川地域活動協議会で備蓄しているからそこでもらえると思ってもらえる方もいました。回覧と掲示板をもっと有効に使って、何度もチラシ等で、お知らせしていくことが必要ではないかと思います。（久保委員）
- ・ 7日間の水というのは、割とやりやすいですが、食糧はなかなか難しいんです。増田さんがおっしゃったような書きかえを紙でしめすとリストを変えていく必要があります。アプリみたいなもので、何日か後に交換しないといけないとか、賞味期限がわかる、そういうアプリがあったらいいのではと思います。（福岡委員）

- ・ 一時避難所、災害時避難所、津波避難ビルの場所、小学校に行きなさい、というのが電柱についていますが、非常に皆さん見ておられて、逃げるところがどこか、というのは大分皆さんに浸透していると思います。(久保委員)
- ・ 若い人の気持ちは本当のところはわからないのですが、スマホでありパソコンであれば、例えば、避難所がどこというのがいつでもいざという時に見られるという気持ちがあるのではないかと思います。(福岡委員)
- ・ 私たちの地域では、選挙のときに小学校に一番たくさん人が来るということで、選挙の日とあわせて避難所公開デーというのを行いました。小学校の備蓄倉庫の中のものを出してきて、皆さんに寝てもらったり、仮設トイレに座ってもらう体験をしてもらったのですが、一番皆さんに関心を持ってもらったことが、学校にある備蓄倉庫の備蓄数で、その少なさに驚かれて、自分たちで備蓄しなきゃいけないということを実感されていました。(増田委員)

【1－2－3 犯罪抑止に配慮したまちづくりの促進】

- ・ 現在、社会福祉協議会と警察と役所の三者が一体になりまして、防犯について、こういう詐欺事件がありました等の一覧表を毎月出しておられますが、すごくいいと思っています。町会の班にはコピーを配布しているのですが、これを拡大コピーして重要なところにはラインマーカーの線を入れて掲示板に貼ってみようと思っています。(福岡委員)
- ・ 他区の街歩きに参加した時に、その町会は皆さん玄関のところに同じような紙を貼っていて、「町会の申し合わせにより訪問販売、勧誘等、一切お断り、変だなと思ったら1人で決めずに、すぐその足でお隣りへ、何々何丁目振興町会」と書いてあり、これはいいと思いました。何か隣にちょっと変だったんだけどっていうことも言いやすくなると思います。これは区役所で、いうのではなく地域や町会ぐらい細かいところで必要になるのかと思います。この町は、班長さんのところだと思われそうですが、避難場所はここという簡単な地図を記載した頑丈なパネルのようなものを作って置いてありました。(増田委員)
- ・ 詐欺にかかるのは、70歳以上の方が多いですが、詐欺への注意喚起のステッカーを、例えば老人クラブの会合やお年寄りが集まる場所でお渡しして、電話のところに貼るようにすると、ご自身で気をつけるのではと思います。玄関に貼っている場合は、周りのみんなは気をつけますが、御本人が電話で

引っかかってしまえば終わりだと思います。(光在委員)

- ・ 啓発活動の参加者の延べ人数や、出前講座受講者を増やしたいというのも大事だと思います。しかし高齢者ですので、足が悪くなかなか外出ができない方が増えているのが現状です。そういう方には、「留守番電話にして、出ないように。」とか、「玄関でインターホンが鳴ったら、絶対に相手にしたらいけない。」という注意を地道な努力で促していくことが必要だと思います。(久保委員)

⇒ 外出できない方へは街頭啓発活動や講座をやっても届かないので、こういう詐欺がはやっていて危ないということについて、地域の顔なじみの民生委員やお隣の方からの声かけ、近隣の掲示板等を通じて行っていくことが必要だと思います。(山崎市民協働課長代理)

- ・ 被害者の方をタイプ別に絞り込むということが、データでできるのではと思います。例えば、御近所とあまりコミュニケーションをとっていない、身体的に外出が難しくなっている等、他のデータと被害にあってしまったデータで掛け合わせていくようなことをして、具体的にこういう人がだまされていますというような像ができ上がったら、それを広報紙に載せたり、掲示板に掲示する等というようなことができればいいのではと思います。御近所とつながっている人は被害が少ないというデータが出てくれたら、すごくうれしいことだと思います。(増田委員)

- ・ 余り動けない高齢者の方への啓発活動について、デイサービスを受けていらっしゃる方であれば、デイサービスの会社の方を通じて、啓発物品を渡してもらうという方法もあると思いました。

敬老会のときは地域で何かお祝いとかされるんですね。(米山委員)

⇒ 敬老会の物品を配るときに、そういう防犯の特殊詐欺の啓発を行うということですね。(山崎市民協働課長代理)

- ・ 町会に入っている人しか対象になっていないので、町会に入っている人には全員配ります。(福岡委員)
- ・ 昨年、淀川区社協が「区民福祉のつどい」で認知症介護についての映画と講演会をされて、その参加者の内、440人にどこでこの講演会を知りました

か、という問いをして、「チラシ」が131人で30%、「区社協だより」が107人の24%、「知人を通じて」が55人で13%、「掲示板で見た」が23人の5%で掲示板が少ないです。「介護事業を通じて」が16人で4%。チラシってこんなに見られているのかと感心しました。やっぱり自分が必要と思ったものについてはご覧になるんだなと思いました。(福岡委員)

【1-3-1 地域における見守り支援体制の構築】

- ・ 地域福祉の推進はその担い手を探すのではなく、一般に皆さんが行事か何かに参加していただくにはどうしたらいいのかという質問なんですね。(福岡委員)

⇒ まずは興味や意識を持っていただくということで、実際に高齢者の支援や子育て支援など、実際に支援に参加されている方はもちろんですが、まずは知ることからということで、講演会に参加していただいたり、困っている人を見かけたら少し声をかけるなど、もう少し幅広い捉え方で考えております。(大畑保健副主幹)

- ・ お元気な方でしたら食事会に誘えるんですけども、足の悪い方でそこまで行けないという方ですと、私の地域の食事会は昼に座らないといけないので、ますます勧められないんです。そういう集まりに参加していただくのが難しいと最近つくづく思っています。(福岡委員)

- ・ 区民同士の見守り、支え合いの体制と書いてあるのですが、字ではなくて相関図のような絵にするとイメージがしやすくわかりやすいと思います。「ちょっとしたおせっかいならやってもいいよ」と思っているけど、どこでどういうきっかけで入ればいいのかというのが、実は本当にハードルが高く、何もしていない方から「ちょっと手伝えるんだけど」という一言をかけるきっかけがないのではないかと思います。やってもいいよと思っているけどやっていない人に、その理由は聞いていますか。(増田委員)

⇒ そういう聞き方はしていません。やっている方に対して、どういうことをやっていますか。やっていない方に対しては、なぜやっていないのですかという聞き方です。(大畑保健副主幹)

- ・ やる気はあるがやっていない人のやらない理由がわかれば、解決策が出てくるのかなと思いました。

ボランティアセンターというのはどういうものでしょうか。(増田委員)

- ⇒ 区社協や市社協が設置しているボランティア・市民活動センターのことです。区役所でボランティアの情報発信をするには限界がありますので、専門家である区社協と協働して情報発信しています。区社協では、毎月「やすらぎ通信」という情報誌を工夫して出しておられ、保健福祉課にも置いています。(鳶岡保健福祉課長)
- ・ 加島では、災害時だけではなく、ふだんの見守り支援活動の一環として、今年から移動販売の店舗を実施しています。加島は地域的に三津屋のスーパーと古い昔からの市場が一つあるだけなんです。(光在委員)
 - ・ 子ども見守り隊で子どもに声かけをしています。その際に、高齢者の方にも、声をかけるようにしています。そうすると、元気に歩いていかれるように見えます。(久保委員)
 - ・ 地域の行事があるときにボランティアスタッフの募集をしますが、一度地域のボランティアをすると、「ずっと取り込まれてしまうのではないか」というような恐怖感で来てもらえないんです。「やすらぎ通信」等で、ボランティアの人の声としてそのようなことはないことも書かれるといいのではないかと思います。まずはやってみて、楽しければ続けてやっていただけるのではないかと思います。(増田委員)
 - ・ その反面、「ボランティアをしてみたいけども、どうすれば参加できるのか」という方もおられるだろうと思います。そういう方には、機会や居場所を提供することがものすごく大切だと思います。(福岡委員)
 - ・ 新聞に載っていましたが、町会長や地域の役員をされている方々は、健康であつたり認知症にかかりにくいという統計が出ているんです。ちょっとした負担はやはり必要です。(泉議長)
 - ・ 地活協フォーラムで講師の方が、「地域の役員をしていたら元気になって寿命が延びるというデータが出ているので、こんなに得な役はないと言ってみんなに勧めてください」と言われていました。(福岡委員)

(2) その他

○資料3について説明

(久保政策企画課長)

質疑応答・意見交換

- ・ 図書館がもと淀川区役所の跡地にできたら、今の図書館はなくなるんですか。
(光在委員)

⇒ 基本的には、1区1館ですので、新しくできると今の新北野の図書館は供用中止となります。(久保政策企画課長)

- ・ 新しい図書館はよく言われる公設民営ですか、直営ですか。(泉議長)

⇒ 他の自治体では指定管理がありますけど、いろいろ検証した結果、指定管理よりも直営で、ということになりました。(久保政策企画課長)